CONTENTS

文化庁月報

1994 10 No.313

文化行政の充実に向けて　文化庁長官　遠山敦子　4

特集●舞台の裏方―舞台技術とは何か

■巻頭エッセイ　舞台技術のさまざまな顔　立木定彦　6

消えていく舞台　串田和美　18

舞台の裏方を育てるピッコロ舞台技術学校　荻野良明　20

■座談会　寝ているホンを立ち上げる
―舞台技術の現状と課題―
朝倉　摂／辻　亨二／吉井澄雄／鷲見高志（司会）　9

都道府県のページ

ご存じですか？　こんな文化財⑯
指宿橋牟礼川遺物包含地　24

一度は行きたい博物館・美術館⑱ 唐沢博物館　27

法人紹介～文化に息吹きを～

日本の伝統文化を"音と映像"で記録・公開
㈶ビクター伝統文化振興財団　30

人間国宝を訪ねて④

吉村雄輝（上方舞）　聞き手／高田都耶子　32

ACA[Agency for Cultural Affairs]NEWS

・教育・文化週間／文化財保護強調週間 ……35
・映画芸術振興に関する調査研究協力者会議報告 …36
・マルチメディア問題に関する著作権連絡協議会の設立 ……38
・著作権審議会第一小委員会専門部会の設置 ……39
・著作権審議会権利の集中管理小委員会の設置 ……40

イベント案内

写実の系譜Ⅳ『絵画』の成熟／東京国立近代美術館 ……41
素材の領分／東京国立近代美術館工芸館 ……42
中国の陶磁／東京国立博物館 ……43
都の形象／京都国立博物館 ……44
正倉院展／奈良国立博物館 ……45

ちょっと一息

北のつづれおり史学／高橋富雄 ……22

●著作権法利用講座⑲ ……34
●芸術文化振興基金ニュース …46
●今月の国立劇場 ……47
●編集後記 ……48

Untitled（平成5年文化庁買上作品）
児玉靖枝／作
こだま・やすえ／昭和36年兵庫県生まれ。61年京都市立芸術大学大学院修了後、同大非常勤講師。京都・神戸などを中心に個展や共催展を活発に開催。上野の森美術館大賞展（60年）、美術選抜展（京都市美術館：平成3、4年）、時代を担う作家展（京都府立文化芸術会館：3、5年）など出品も多数。

就任あいさつ

文化行政の充実に向けて

文化庁長官
遠山敦子

このたび内田弘保前長官の後任として、第十二代文化庁長官を拝命いたしました。

文化庁での勤務は、昭和六十三年六月から平成三年六月まで文化部長及び次長を務めて以来三年ぶりのことになりますが、次長在任中は、芸術文化振興基金の創設や、第二国立劇場（仮称）の創設のため土地と建設資金の確保に苦労したことなどが印象に残っております。その後におきましても、国民の心の豊かさを求める傾向を反映して、社会全体で文化振興の意欲がますます盛り上がりを見せており、個性豊かな文化の発信と交流を通じて国際貢献を行っていくことが我が国の大きな課題となっていると認識しております。すなわち、これからの日本は、単に経済大国であるばかりでなく、真の意味の文化立国を目指すべきではないかと考えます。

このように文化振興の重要性が高まっている時期に文化庁長官という重責を担うことは、大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いがいたします。

文化庁においては、昨年創設二十五周年を迎えたことを契機として、「文化発信社会」の構築を提唱いたしました。「文化発信社会」とは、これまでのように実利や効率性を追求するだけではなく、自ら考え、創造し、表現することができるような豊かな個性を尊重し、さらには美的な感性や、やさしさというようなことにも大きな価値を見出す社会のことを意味します。近年、各地域においても、地域の個性ある文化を育て、発信していこうとする気運が高まっており、また、国際社会においても、民族、歴史、風習等の異なる地域間における文化の交流が盛んに行われるようになってきております。このように個性ある文化が出会い、相互に受信し、影響を与え合うことにより、新たな文化創造が行われることが期待されます。

このような「文化発信社会」の構築に向けて、第二国立劇場（仮称）や東京国立博物館の平成館（仮称）の建設工事に着手するなど国立文化施設の整備が進み、また、姫路城や法隆寺の世界遺産への登録をはじめとして文化の国際交流・協力の分野における飛躍的な進展がみられるなど、文化振興施策は着実にその充実が図られてきております。しかし、真の「文化発信社会」の構築のためには、まだまだ課題が山積しているというのが現状です。

特に、文化庁予算は、文部省全体に占める割合が約一％に過ぎず、欧米諸国の文化予算に比較するとまだまだ極めて少ない状況にあると言わざるを得ません。

このため、平成七年度概算要求においては、文化の創造と発信、文化財の保存・活用の推進、文化の国際交流・協力の推進及び文化情報総合システムの整備充実を図るとともに、これらの推進基盤となる国立文化施設の充実を図ることとしております。また、新たに地域文化の拠点となる公立文化会館の活性化を図るため、地域芸術団体等の育成や優れた芸術団体の派遣等を通じた総合的な支援事業を実施するとともに、「芸術情報プラザ」を開設し、芸術家・団体に関する情報提供事業等や芸術家・団体と文化会館とのマッチング事業を実施するなど、地域文化の振興に努めるための所要の額を計上しているところです。さらに、平成七年度に新たに設けられた公共投資重点化枠においても、大規模遺跡総合整備事業（古代ロマン再生事業）、国立文化施設の高度化・情報化及び文化財の国際協力拠点としての東京国立文化財研究所の施設整備等について要望しているところです。

これらを合わせると、対前年度百十三億四千五百万円増（一九・〇％増）の総額七百九億二千九百万円の要求額となり、昭和五十三年度以来の高い伸び率となります。

これに加え、国・地方を通じた文化振興のための組織体制の整備充実を図るとともに、民間企業等の積極的な支援の方向を助長するため、税制上の優遇措置の一層の活用等を図っていくことなども重要な課題です。

もとより、文化行政は、芸術創造活動の推進、地域文化の振興、国語施策の改善、著作権制度の改善、宗務行政の推進、文化財保護政策の改善充実等、極めて多岐にわたっております。いずれも重要であり、その着実な進展を図るとともに、〝文化立国の構築〟という高い理想に向かって、中長期的視野の下に力強く歩みを進めるべき時であると考えます。今後私の力の及ぶ限り、文化行政の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、御理解、御支援の程よろしくお願い申し上げます。

10月文化庁行事予定

1日・芸術祭祝典（サントリーホール）
6日・全国史跡整備市町村協議会大会（鳥取市）
19～20日・文化振興会議・中部地区（愛知県）
20日・国語審議会第5回総会（東條会館）
21日・文化財保護審議会（文化庁）
22日・第9回国民文化祭・みえ94（津市ほか）
26日・国語施策懇談会（愛知県）
27～28日・文化振興会議・西部地区（愛媛県）

編集後記

ようやく〝酷暑〟の夏も終わり、鈴虫の声が聞こえる季節を迎えましたが、皆様、無事この夏を乗り越えられたでしょうか。秋といってもいろいろありますが、やはり何といっても芸術の秋が一番です！　各地でいろいろな公演や展覧会等が開催されているので、ぜひこの機会を逃さず、美術館・博物館や劇場・ホールに足を運び、芸術的な気分に酔いしれたいものです。

さて、美術館等にはいわゆる「美の裏方」ともいうべき学芸員や専門の職員がいて、特別展のたびにその実力を如何なく発揮していますが、今月号は「舞台の裏方」ということで、舞台技術にスポットを当てて特集を組んでみました。こうした方々のたゆみない努力によって、私たちが舞台を楽しく鑑賞できるということを忘れてはならないと思います。

それにしても、今月号の座談会は、文化庁にとって耳の痛いお話ばかりで、平成九年度には第二国立劇場（仮称）が開場する予定であることなども考えれば、今後、舞台技術の一層の振興を図っていかなければならないことを改めて認識した次第です。（栗）

文化庁月報　10月号（通巻313号）

平成6年10月25日印刷・発行

編　集－文化庁
〒100 東京都千代田区霞が関3－2－2
発　行－株式会社ぎょうせい
本　社　〒104 東京都中央区銀座7-4-12
電話03(3571)2126
営業所　〒162 東京都新宿区西五軒町4-2
電話03(3268)2141（代表）
振替口座　00190-0-161
印刷所－㈱行政学会印刷所

定価530円（本体515円）送料76円
年間購読料6360円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合せ・申し込み先
㈱ぎょうせい営業第一課宣伝係
電話03(3269)4145（ダイヤルイン）

©1994 Printed in Japan

ISSN 0916－9849